

志太指物さしものについて

静岡県は、木工産業の地として全国的にもたいへん有名です。なかでもここ藤枝には、昔から志太指物として伝えられてきた伝統の技術が、今も職人たちによって、大切に守られています。

指物さしものというのは、日本独特の指金さしごという物差ものさしを使い、板を組み立てて作る家具などのことで、それを作る職人のことを指物師さしものしと呼びます。志太地域では簞笥たなご、鏡台かがりだい、文庫ぶんこ、引出箱ひきだしばこといった家具類ばかりでなく障子しょうじや襖ふすま、雨戸あまどなど日本家屋かみには欠かせない建具類も昔は指物師さしものしによって作られたのです。

志太指物師さしものしのルーツをさかのぼると、おおかたは駿府城すまのじょうをはじめ、久能山東照宮くののとうしょうみやうや浅間神社あさまじんじやを造営するために全国から集められた職人たちにたどりつきます。そのまま静岡の地に落ち着いた人々は駿河指物さしものの技わざを、藤枝に根をおろした人々は志太指物さしものの技わざを、長い長い時間をかけて育て、かつ現代まで伝えてきたのです。

藤枝がその昔、東海道の宿場町しゆくば町として発展していたことや、地理的にも古くからさまざまな特産物とくさんぶつが集散した商業の町であったことも、伝統の技わざを今に伝える重要な要素でした。

天保十三年（一八四二）の藤枝宿絵図しゆくばずには、十六軒もの指物師さしものしが見られますが、今はほんのわずかな桐箆笥職人たなごと建具職人たぎがこの技わざを伝えていきます。